【授業科目】リハビリテーション論　Introduction to Rehabilitation

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
金田嘉清、小山総市朗 水野元実、渡辺章由	3年次 前期	選　択	1	15	講義	あり		可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する フィードバック方法	授業概要/リハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医学・医療の特性、リハビリテーション関連職種について講義する。医療職者が知っておくと良い補助具（車椅子、杖、装具、義足、自助具）の取り扱い方や注意点について解説する。各疾患に対するリハビリテーションの説明を通して、障害を抱えた人への支援方法を考えるきっかけとなるよう授業を行う。 講義形式で、講義資料を配布して行う。 課題に対するフィードバック方法/授業中に行う確認テストはその場で模範解答例を示し、考え方や間違えやすい点などを解説する。
実務経験に関する 授業内容	なお、授業は大学病院リハビリテーション部などにおいて、理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が看護師に必要なリハビリテーションに関する知識について準備した資料・教材を用いて授業を行う科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー ④「幅広い視野でヘルスケアシステムにおける看護の専門性ならびに関連する多職種の機能・役割を理解し、連携して 地域社会に貢献することができる。 」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	① リハビリテーションの概念、定義を説明できる。 ② リハビリテーション関連職種について説明できる。 ③ 疾患と障害の関係について説明できる。 ④ 補助具について知識を深め、適切に取り扱うことができる。 ⑤ 各疾患のリハビリテーションについて説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第１回～８回事前学習：インターネットや新聞、雑誌、書籍を活用してリハビリテーション体験者や家族の手記に目を通し、知り得たことや気づきをレポートする（120分）。 第１回～８回事後学習：配布資料を見直し印象に残ったことをレポートする（60分）。解らなかったことは調べて自身でまとめ、適宜教員に確認する（60分）。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　リハビリテーション総論について講義する。 第２回　疾病と障害の関係/リハビリテーション関連職種について講義する。チームビルディングについてグループワークを行う。 第３回　補助具１：車いす・杖について講義する。操作・使用体験を行う。 第４回　補助具２：装具・義肢、自助具について講義する。装具装着体験、自助具使用体験を行う。 第５回　運動器疾患のリハビリテーションとして、主な評価と治療、骨折や関節変形の画像所見、整形外科術後における生活の注意、関節リウマチの特徴と生活指導について講義する。 第６回　脳血管障害のリハビリテーションとして、脳の解剖、脳血管疾患の画像所見、病型、高次脳機能障害、各病期（急性期、回復期、生活期）のリハビリテーションについて講義する。 第７回　高齢者のリハビリテーションについて講義する。 第８回　予防のためのリハビリテーションについて講義する。ストレッチ効果を体験する。 ①金田 嘉清 ②④⑧水野 元実 ③⑦渡辺 章由 ⑤⑥小山 総市朗
評価方法 評価基準	定期試験85%、レポート15%
教科書	なし　　参考書等　なし
学生へのメッセージ	復習はその日のうちに行い、配布資料から要点をまとめておくと良いです。また、授業では積極的に質問し、自ら学修達成度を高める努力を期待します。